

# 里山の魅力絵図マップ 舌喰池の鳥類看板も



「次世代がつくる里山の魅力絵図」を紹介する古田教授

## 長野大「信州上田学」成果報告

上田中と連携し「信州上田学事業」を推進する長野大学の環境ツーリズム学部はこのほど、地元住民や団体などを通じて、活動した成果を報告した。

このうち、古田晴美 講師と学生5人による「代がつくる里山の魅力絵図」(信州上田学プロジェクト)を、(一社)レストリー(森林農 信州上田里山文化推進委)プロジェクトは、協会が協力した。古田教授と魅力スポット 生徒らは、昨年6月を納めたA6判、8月1日から11月、上田市別

所温泉の野倉と上田地区の歴史を探索。神社やスポットを巡り、日本遺産の認定に関係するレイラインを地形アプリで科学的視点で測定した。また、竹林整備、竹炭づくり、マコモ田の整備に里山の暮らしを体験した。

マップ製作にあたっては、同地区の温泉センターに残されていた古い時代の観光地図の趣きを反映することも、500年続く雨乞い祭りで大神岳に祀られる「瀧(おかみ)」の文字や九頭竜大規模をモチーフに取り入れた。

古田教授はマップについて「自然と共生してきた里山の暮らしの魅力を感じ、若い学生の感性や次世代を受け継ぐ若者への訴求力になれば」と期待する。また、高橋一秋教授と学生5人の「舌喰



「舌喰池で観察される鳥類」の看板製作に携わった学生

池(したくいけ)水鳥観察会「プロジェクト」は「舌喰池で観察される鳥類」と題した、横約2m、高さ約1mの可動式看板を製作した。同市手塚の舌喰池を利用するカルガモ「アオサギ」など水鳥や「ハス」(ヒシ)等の種生を6年間かけて観察。「繁殖期」「池干し期」「越冬期」に分類し、自分達で撮影した写真に解説を加えるなどしたもので、塩田平のため池を愛する会と手塚自営会が活動に協力した。

「鳥が大好き」と語り、3年間活動した4年の大和田樹里さん(20)は「ため池に行きたことのない人を知ってもらい、ため池の魅力に気づいてもらえたら」と話した。

看板は、公民館や学校などに貸し出している。近く、手塚地域の住民を対象に行われる野鳥観察会でお披露目されるという。